

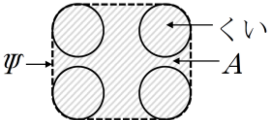
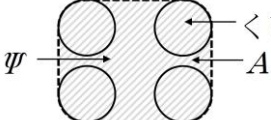
この正誤表は更新される場合があります。最新版はICBAの HP (<https://www.icba.or.jp/kenchikuhorei/pdf/ybook2015seigo2.pdf>) でご確認ください。
他の刷の正誤を含む最新情報については (<https://www.icba.or.jp/kenchikuhorei/>) で確認できます。

No.	ページ	行等 (Lは行数)	正	誤	備考
1	9	令第81条 関係告示	<ul style="list-style-type: none"> ・平13国交告第1540号 (桝組壁工法・木質プレハブ工法) ・平13国交告第1641号 (薄板軽量形鋼造) ・平14国交告第474号 ： ・平17国交告第631号 (エネルギーの釣合いに基づく耐震計算等) ・平19国交告第832号 (令第82条等と同等の構造計算の基準) ・平19国交告第1274号 	<ul style="list-style-type: none"> ・平13国交告第1540号 (桝組壁工法・木質プレハブ工法) ・平14国交告第474号 ： ： ・平17国交告第631号 (エネルギーの釣合いに基づく耐震計算等) ・平19国交告第1274号 	H28/1/12追加
2	45	平27国交告第189号囲み内L3	第81条第2項 <u>第一</u> 号イ	第81条第2項 <u>第二</u> 号イ	H27/10/5追加
3	45	平27国交告第189号囲み内L8	桁行方向の <u>い</u> ずれかの	桁行方向の <u>う</u> ちいずれかの	H27/10/5追加
4	45	平27国交告第189号囲み内L15	イ 前号イ及 <u>び</u> ロに定める…	イ 前号イ <u>又</u> はロに定める…	H27/10/5追加
5	45	平27国交告第189号囲み内L17	桁行方向の <u>い</u> ずれかの	桁行方向の <u>う</u> ちいずれかの	H27/10/5追加
6	45	平27国交告第189号囲み内L19	(2) <u>(1)</u> の規定	(2) <u>(1)</u> イの規定	H27/10/5追加
7	64	政令129条の2の4囲み内L3	一 建築物に設ける第129条の3第1項第一号及び第二号に掲げる昇降機にあつては、第129条の4及び第129条の5(これらの規定を第129条の12第2項において準用する場合を含む。)、第129条の6第一号、 <u>第129条の8第1項並びに第129条の12第1項第六号の規定(第129条の3第2項第一号に掲げる昇降機にあつては、第129条の6第一号の規定を除く。)</u> に適合すること。	一 建築物に設ける第129条の3第1項第一号及び第二号に掲げる昇降機にあつては、第129条の4及び第129条の5(これらの規定を第129条の12第2項において準用する場合を含む。)、第129条の6第一号 <u>並びに第129条の8第1項の規定(第129条の3第2項第一号に掲げる昇降機にあつては、第129条の6第一号の規定を除く。)</u> に適合すること。	H28/1/12追加
8	93	断面形状及び寸法の表(四)αの値	Ⅰ/1080	Ⅰ/1080	数字の 1→英字の I

この正誤表は更新される場合があります。最新版はICBAの HP (<https://www.icba.or.jp/kenchikuhorei/pdf/ybook2015seigo2.pdf>) でご確認ください。
他の刷の正誤を含む最新情報については (<https://www.icba.or.jp/kenchikuhorei/>) で確認できます。

No.	ページ	行等 (Lは行数)	正	誤	備考
9	134	L5	削除	(1) 組積造は、地震のない国において、れんが又は石等の比較的大きな圧縮強度に期待して発達した構造である。地震の多い我が国では、過去に幾多の地震被害例があり、現在では、ごく小規模あるいは特殊な用途に使われている。	H28/11/21追加
10	142	L10	<p>壁厚さ：壁頂までの距離の1/10以上 控壁：間隔は4.0m以下で、突出長さは壁厚さの1.5倍以上 1.2m 以下 0.2m 以上 GL</p> <p>壁厚さ：壁頂までの距離の1.5/10以上 1.2m 以下 0.2m 以上 GL</p>		H28/11/17 差し替え
11	166	L25	(3) 骨材(細骨材, 粗骨材)は、適切な粒形及び粒度分布を有したものでないと、	(3) 骨材(細骨材, 粗骨材)は、適切な粒形をもち、細粗粒が適度に分布したものでないと、	H28/11/17追加
12	209	L16	・・・あるいは空気膜構造とする場合には、時刻歴応答解析によって・・・	・・・あるいは空気膜構造とする場合には、 <u>限界耐力計算又は時刻歴応答解析</u> によって・・・	H29/07/28追加
13	209 L34 211 L11	L26 L34 L11	「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準及び同解説」	「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準及び解説」	H29/03/09追加
14	212	政令第80条の3	最終改正 平成27年1月15日政令第6号		H30/1/31追加
15	212	囲み内 L3	第9条第1項	第8条第1項	H30/1/31追加
16	212	囲み内 L5 囲み内 L11	同法第9条第2項	同法第8条第2項	H30/1/31追加
17	212	囲み内 L9	河道閉塞	河道閉鎖	H30/1/31追加
18	212	L12	(土砂法第9条第2項)	(土砂法第8条第2項)	H30/1/31追加

この正誤表は更新される場合があります。最新版はICBAの HP (<https://www.icba.or.jp/kenchikuhorei/pdf/ybook2015seigo2.pdf>) でご確認ください。
他の刷の正誤を含む最新情報については (<https://www.icba.or.jp/kenchikuhorei/>) で確認できます。

No.	ページ	行等 (Lは行数)	正	誤	備考
19	247	政令第81条囲 み内 L5	三 屋根ふき材、特定天井、外装材及び屋外に…	三 屋根ふき材、外装材及び屋外に…	H27/10/5追加
20	304	L20 〔判定例〕①〔例 1〕	この場合は、 <u>支持層</u> である…	この場合は、 <u>持層</u> である…	H27/10/5追加
21	351	図6.3-1 保有水平耐力 の確認の枠内	$Q_{un} = D_s F_{es} Q_{ud}$	$Q_u = D_s F_{es} Q_{ud}$	H28/3/23追加
22	375	図6.4-1 保有水平耐力 の確認の枠内	$Q_{un} = D_s F_{es} Q_{ud}$	$Q_u = D_s F_{es} Q_{ud}$	H28/3/23追加
23	398	L3 欄外	■		H303/23追加
24	406	図6.5-1 保有水平耐力 の確認の枠内	$Q_{un} = D_s F_{es} Q_{ud}$	$Q_u = D_s F_{es} Q_{ud}$	H28/3/23追加
25	462	囲み内	λ 建物のうち…又は <u>鉄骨造</u> である階	λ 建物のうち…又は <u>鉄筋造</u> である階	H30/1/31追加
26	503	図8.5-3出典	(日本建築センター他「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準及び同解説」より)	(日本膜構造協会「膜構造の建築物・膜材料等の技術基準及び同解説」より)	H29/03/09追加
27	561	L20 キャプション	図9.6-2 平板載荷試験による許容応力度と N_{sw} の関係 ²¹⁾	図9.6-2 平板載荷試験による許容応力度と N_{sw} の関係 ³⁾	H30/2/16追加
28	569	図9.6-7			H27/10/5 ψ の矢印指し位置の修正
29	581	L33 追加	21)(独) 都市再生機構, 宅地耐震設計マニュアル(案), 2003		H30/2/16追加
30	619	(付1.2-15)	$Q_u = w A_3 \cdot \sigma_u / \sqrt{3}$	$Q_u = w A_3 \cdot \sigma_u \sqrt{3}$	H30/2/16追加
31	631	L1	$\frac{C_y}{2B_2 X} < F_c$	$\frac{C_y}{2B_2 x} < F_c$	H29/07/28追加

この正誤表は更新される場合があります。最新版はICBAの HP (<https://www.icba.or.jp/kenchikuhorei/pdf/ybook2015seigo2.pdf>) でご確認ください。
他の刷の正誤を含む最新情報については (<https://www.icba.or.jp/kenchikuhorei/>) で確認できます。

No.	ページ	行等 (Lは行数)	正	誤	備考
32	631	L8	\underline{X} :ベースプレート端部から・・・	\underline{x} :ベースプレート端部から・・・	H29/07/28追加
33	643	L28	6) ベースプレートの板厚の検討(板厚 $t > 40\text{mm}$ のため基準強度 $F = 295\text{N/mm}^2$ を用いる)	6) ベースプレートの板厚の検討	
34	667	L3	($\text{N} \cdot \text{mm}$)	(N/mm^2)	H29/07/28追加
35	671	L30	de :引張鉄筋群の重心から圧縮縁までの距離(付図1.3-12参照)(mm)	de :引張鉄筋群の重心から圧縮縁までの距離(付図1.3-13参照)(mm)	H29/07/28追加
36	671	下L2	また、(5)⑥a)・・・(付1.3-41)式を用いて算定することができる。	また、(5)⑥a)・・・(付1.3-40)式を用いて算定することができる。	H29/07/28追加
37	678	L2	$P_{cwe} = \frac{a_{wc}}{(B-t)s}$	$P_{cwe} = \frac{a_w}{(B-t)s}$	H29/07/28追加
38	679	L26～30	通常は壁量が十分にあり、接合部に作用するせん断力が十分に小さいと考えられることから、許容応力度計算を省略して良い。しかし、壁量が少ない場合や柱はり接合部の周囲に壁が配置されない場合など、変形量が大きい接合部では、許容応力度計算を行う必要がある。このときには、たとえばRC規準(2010)15条・・・	通常は壁量が十分にあり、柱はり接合部に作用するせん断力が小さいと考えられることから、許容応力度計算を省略することができる。ただし、壁量が少なく柱はり接合部の周囲に壁が配置されない場合などは、作用するせん断力が大きくなるため、接合部の性能を許容応力度計算で確認する必要がある。許容応力度計算を行う場合は、RC規準(2010)15条・・・	
39	695	L32～33	19) 国立研究開発法人建築研究所 向井智久他：実験データベースを用いた鉄筋コンクリート造部材の構造特性評価式の検証，建築研究資料 No. 175, 2016. 1 1, http://www.kenken.go.jp/japanese/contents/pu	19) 向井ら：実験データベースを用いた鉄筋コンクリート造部材の構造特性評価式の検討と検証結果，建築研究資料, 2015.12(出版予定)	H29/02/10追加

この正誤表は更新される場合があります。最新版はICBAの HP (<https://www.icba.or.jp/kenchikuhorei/pdf/ybook2015seigo2.pdf>) でご確認ください。
他の刷の正誤を含む最新情報については (<https://www.icba.or.jp/kenchikuhorei/>) で確認できます。

No.	ページ	行等 (Lは行数)	正	誤	備考
40	778	平17国交告第 566号囲み内 L19	ハ 建築物に設ける令第129条の3第1項第一号及び第二号に掲げる昇降機は、令第129条の4、令第129条の5(これらの規定を令第129条の12第2項において準用する場合を含む。)、 <u>令第129条の8第1項並びに令第129条の12第1項第六号の規定に適合するほか</u> 、当該昇降機の籠が、籠内の人又は物による衝撃を受けた場合において、籠内の人又は物が昇降路内に落下し、又は籠外の物に触れるおそれのない構造であること。	ハ 建築物に設ける令第129条の3第1項第一号及び第二号に掲げる昇降機は、令第129条の4及び令第129条の5(これらの規定を令第129条の12第2項において準用する場合を含む。)並びに <u>第129条の8第1項の規定に適合するほか</u> 、当該昇降機の籠が、籠内の人又は物による衝撃を受けた場合において、籠内の人又は物が昇降路内に落下し、又は籠外の物に触れるおそれのない構造であること。	H28/1/12追加